IS　インフィニット・ストラトス　千冬と並ぶ心

黒星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＩＳ　インフィニット・ストラトス　千冬と並ぶ心

【Ｎコード】
Ｎ９４３７Ｓ

【作者名】
黒星

【あらすじ】
なるべく原作に沿って行こうと思います

主人公紹介（前書き）

主人公最強モノですので嫌いな方は
見るのをオススメしません

主人公紹介

主人公紹介

【黒星　心】
くろぼし　こころ

【養子】
イケメン、サングラスをかけている
常にロングコートを着ており制服は着ていない
本人いわく着替えるのがめんどくさいだそうだ
髪の色は黒に蒼のメッシュが入っている

【身長】
１７０ｃｍ

【歳】
１５才

【性別】
男

【好きなもの】
チョコ
寝ること
戦闘など

【嫌いなもの】
肉
めんどくさいこと
見下されることなど

【国籍】
日本人

【ＩＳ】
Ｎｅｍｅｓｉｓ　日本語訳：執行者
ＩＳ自体はあるが束が作ったものではないので
どのにもあてはまらない
特徴は翼
漆黒で本物の翼に間違えるほど
なめらかに動く
機体には蒼や白といった部分があるがほとんどが黒に覆われている
ＮＡＲＵＴＯの飛段のような３個の先がついた大鎌を背負っている
ドイツで一次移行を行ったためドイツ語
第二移行になると翼の色が銀と黒色になる
瞬間加速能力はＩＳの中でも一番早い

【武器】
死神の鎌（デスサイズ）
ロープのようなものがついておりそれで拘束したりも出来る
強度も抜群で最強

すばやい攻撃が出来る
威力は弱い

神の斧（ゴット　アックス）
威力重視の細長い斧で
ＩＳを一撃で再起不能にできる
その一撃は大気をも割る

ワン〇ースの最強の海賊が持ってるもの
と捕らえてください

八咫鏡（ハヤタノカガミ）
すべての攻撃を無効に出来る楯
ＡＩＣなどとは違い高速で出現させ
集中しなくても攻撃を無効に出来る

イメージはＮＡＲＵＴＯイタチのスサノオ

【備考】
戦闘性でかなり好き
幼いころに両親がネメシスを作って死に
一人で生きて来た
あまりにも頭が良く喧嘩や戦闘が強すぎる為
神童などど呼ばれ
孤独だった
だが千冬と出会いお互いに高めあい
実力は千冬をもしのぐ俗に言う最強
実は千冬と付き合ってたりもする
千冬以外女としてみてない

ＢＢＱが好きでよく千冬や一夏、束とやる

主人公紹介（後書き）

ご意見、ご感想のほど
よろしくお願いします

プロローグ

ＩＳ　正式名称インフィニット・ストラトス
女性しか操ることの出来ないこの機械
男で操れる人間が２人いた
「ここがＩＳ学園か、でかくねえか？千冬」
「しょうがないだろう、そういうものだ」
織村千冬
ＩＳの世界大会優勝者にして
今はこの学園の教師をやっている
「ここでは織斑先生と呼べ」
「はいはい」
返事はするがやる気の無い声
千冬はこいつがどのようなことをここで起こすのか楽しみだった

「じゃあ、私が呼んだら入って来いよ」
軽く頷きウインクをして見送った
「あれ、確か一夏はどうしたんだっけ？

まさかここに？んなかけないか」

『ＨＲは終わりだ、あと転校生がいる　入って来い』

「初めまして、久しぶりと言う方もいるのか・・・」

誰とも関わりたくない心にとって

幼いときの親友一夏がいるのがめんどくさかった

「心！今まで千冬姐を置いてどこ行ってたんだ？」

「悪い、お前には言って無かったな。俺は千冬と一緒にドイツ行ったり

一人で旅とかをしてた。あ、きちんと千冬には連絡取ってたぞ。」

「馬鹿者」

スパーンと言う音が聞こえたと思ったら

頭に衝撃が走った

「学校では織斑先生と呼べ」

俺が頭を抑えていたら一夏も頭を抑えていた

『さっさと自己紹介をしろ』

俺は素直に従った

「黒星　心　好きなものは戦闘と、ちふ・・織斑先生

よろしく」

『『『キャーーーー』』』

『男子よ！しかもカッコ良い！』

『織斑君とは違って悪そうでいいわね！』

『あの目でにらんでほしいわ！』

（3・・2・・1・・）

千冬は心の中でカウントしてた

『零』

その瞬間心を中心に爆発が起きた

教室が静まり返ると共に

中からＩＳを装着した心が現れた

「五月蝿い」

狼のような目つきをした心には誰も映ってはいなかった

パンパン

「ＨＲは終わりだ、解散」

その教室には誰１人として動けるものはいなかった

プロローグ（後書き）

ご意見、ご感想お待ちしております

1話　ＩＳ学園（前書き）

編集しました

1話　ＩＳ学園

「授業を始めます、皆さんも知っているとおり
ＩＳの正式名称はインフィニットストラトス。
日本で開発されたマルチフォームスーツです」

いくら最初からって言ってもこれくらいは誰でも知っているだろ
などと思いながら真面目に聞いている振りをした

「では今日から3年間しっかり勉強しましょうね」
『『『はい！』』』

やっと終わったよ、てか暇だなーー
千冬のトコ行くか

職員室のドアを開け千冬の席を見つけ
ゆっくりと近づいた

「わっ」

『きゃっ』

「びっくりした??」

満天の笑顔で話しかけたら
ジト目で見られた

『ここは職員室だぞ、どうやって入った?

職員室にはよほどの用が無いとは入れないようになってるはずだか？
あと、用がないなら教室にもどれ』

「冷たいなあ、へこんじゃうぞーーー」

『・・・・・・』

「わー、ごめんごめん
入った方法だろ？簡単なことだよ
職員室（ココ）にハッキングしただけだよ」

またもやジト目で見られたので
素直に言った

『馬鹿者』

痛ってーー
また殴りやがった

「じゃあ戻るよ、じゃあな」

千冬の額にチュッとリップ音を立てて口付けを落とし
教室へ戻った

その頃職員室では少し顔を赤くした千冬が一人で
何かを入っていたという

2時限目終了後
〜〜教室〜〜〜

「よお、久しぶりだな、一夏」

『心！久しぶり！でも良かったぜ。この学園にもう1人男がいて』

こんなたわいの無い話をしていると
金髪の女子がこちらに歩いてきた

『ちょっとよろしくて？』

『んあ？』

『まあ、何ですのそのお返事？私にはなしかけられることだけでも光栄なんですからそれ相応の態度と言うものがあるのではないですか？』

『悪いな、俺たち君が誰だか知らないし』

ああ、話長い・・・だんだんうざくなってきた
しかも誰だこいつ　調べてみるか

『私を知らない？この「こいつはセシリア・オルコット
イギリスの代償候補生かつ入学主席の人物、そして女で唯一教官を倒した人物だ」

『知っているならよろしくてよ』

「まあ俺もいまいち知らないけど、今検索にかかった」
検索というのはまあ・・あれだ・・ハッキングした
『なあ、話し途中に悪いが』
『下々の者の要求に答えるのが貴族の務めですから
よろしくてよ』
『代表候補生って何？？』
その瞬間周りの全員がこけた
こいつ本当になにも知らねえんだな
『信じられませんわ！日本の男性と言うのはみんな
こんなに知識が乏しいものなこかしら』
やっぱりうぜえなセシリア・オルコット
『で、代表候補生って何？』
『それは「国家代表ＩＳ操縦者のその候補生だ」』
『あなたは何ですの？！人が説明しているときにいつも邪魔ばっか
りして！』
「さあ？なぜだろうね？？」
金髪女子が何か言おうとしてるときに
チャイムが鳴った

そして次の日を迎える

「プププぷぅはははははっは」

『笑い事じゃねえよ！』

今は食事中だ

一夏に昨日の夜の出来事を聞かせてもらった
ルームメイトが箒でバスタオル姿を見てしまい
ひたすら謝ったらしい
想像するだけで笑えてくる。。。

『いつまで食べてる？食事は迅速に効率よくとれ！
授業に遅れたらグラウン１０週だぞ』

グラウンド１０週ってここのグラウンドめちゃくちゃ広いんだから
いくらなんでも無理だろー

そんな事を思っていると

『やべ、早く行かないと
じゃあ心またあとでな、』

俺が返事する前に行ってしまった

そして俺と千冬以外誰もいなくなった

『まだ直ってないのか、お前の遅食いは??』

「仕方ないでしょ、直らないんだから

あ、これ食べなよ、うまいぞ。

あ〜ん」

『ン』と言って食べてくれる千冬はやっぱり可愛い

『じゃあ私はもう行くからな、早く来いよ』

返事はせずに手を振って見送った

〜〜〜〜〜〜〜〜〜教室〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

『誰かいないか??』

「遅れた〜〜」

『織斑君を推薦します!』

『私も！』

『私は黒星君を推薦します！』

『私も～』

推薦？なんのことだ？
まったく分からん

『納得がいきませんわ！そのような選出は認められません
男がクラス代表なんて良い恥さらしですわ！
このセシリア・オルコットにそのような屈辱を
1年間味わえとおっしゃるのですか？
大体！文化としても後進的な国に暮らさなくてははいけない
事自体私にとっては体苦痛全！』

ああうるせえな～
ぶっ殺したくなる

『イギリスだって大してお国自慢無いだろ！
世界一まずい料理で何年覇者だよ』

『おいしい料理はたくさんありますわ！
あなた私の祖国を侮辱しますの？』

「お前だって一夏の祖国日本を侮辱しただろ
セシリア・オルコット！当然の報いだ！」

そしてお互いにらみ合い

『決闘ですわ！』

『ああ、いいぜ』

『わざと負けたら私の小間使い
いえ、奴隷にしますわよ』

『ハンデはどれくらいつける？』

『あら早速お願いかしら？』

『いや、俺がどのくらいハンデをつけたらいいのかなぁと』

「一夏、忘れて入るだろ・・・・」

『織斑君、それ本気で言ってるの？
男が女より強かったのってＩＳが出来る前の話だよ？！』

完全に忘れてたな一夏

『男と女で戦争したら３日持たないっていうよ？！』

『こいつがいなければな』

今まで黙っていた千冬が口を開いた

今は沈黙　全員千冬の方を向いている

『お言葉ですが先生、織斑君はそんなに御強いのですか？』

セシリア・オルコットが多少笑い気味で言った

『ちがう、織斑ではない、心だ』

『『『えっ？』』』

俺はクラスのみんなに目を向けられた

だが千冬が言葉を発してくれたおかげで

目戦から逃れることが出来た

1話　ＩＳ学園（後書き）

千冬がキャッとかいったらいいですよね
と言うことで１話です

ご意見、ご感想
よろしくお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9437s/

IS　インフィニット・ストラトス　千冬と並ぶ心

2011年10月9日01時41分発行